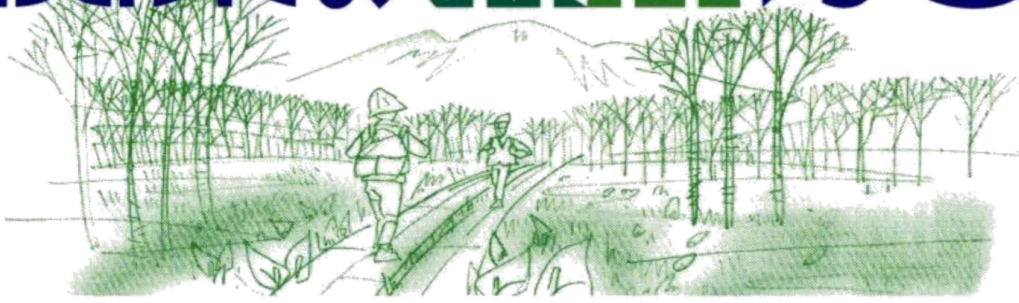


関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



「芝桜（4月下旬から5月中旬）」 「世界のあじさい園（6月下旬から7月下旬）」

「ゆり園（6月下旬から7月下旬）」

ジュピアランドひらた（撮影：白河支署）

- ◎ 民有林と国有林が手と手を取り合ったシステム販売 資源活用課・・・2
- ◎ 林業試験地から 森林技術・支援センター・・・3
- ◎ 新型コロナウイルス感染症に伴う
木材需給動向と国有林材の供給調整の取組 資源活用課・・・4
- ◎ 「森で学ぼう
親子『子ども樹木博士』チャレンジ！2020」を実施 福島森林管理署・・・5
- ◎ 森づくり最前線
利根沼田森林管理署 南郷森林事務所 首席森林官 櫻岡 智之・・・6

民有林と国有林が手と手を取り合った システム販売

資源活用課

『民国連携システム販売について』

関東森林管理局では、国産材の需要拡大や加工、流通の合理化などに取り組む製材工場等と協定を締結し、国有林材を安定的に供給する「国有林材の安定供給システムによる販売」に取り組んでいます。

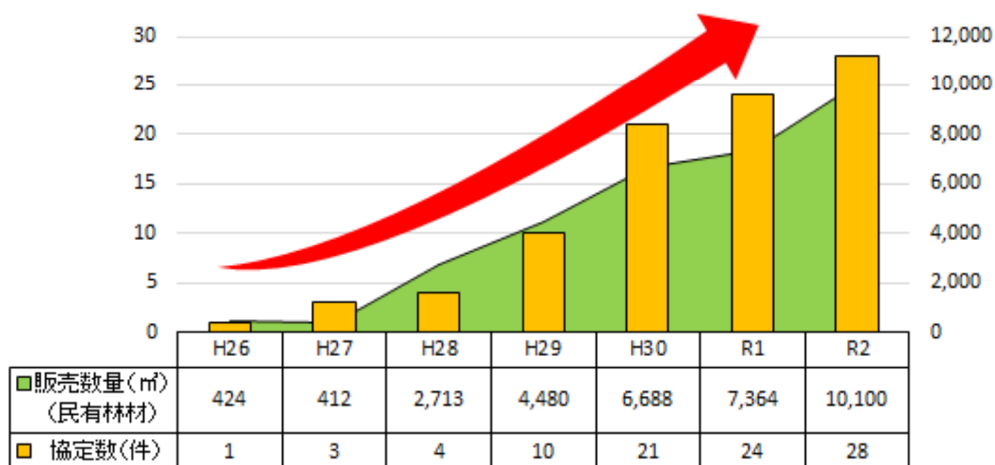


さらに、国有林と民有林が連携した木材の安定供給体制をつくるため、民有林材を協調出荷し販売する「民有林と連携した林産物の安定供給システム販売」（以下「民国連携システム販売」という。）を行っており、民国連携システム販売に参加する民有林所有者を毎年公募しています。

なお、今年度から、参加できる民有林所有者に「意欲と能力のある林業経営者」を追加するなど、より参加し易いよう要件の緩和を図りました。

『今年度の取組』

平成26年度に、協調する民有林物件1件ではじめた民国連携システム販売は、今年度は協調物件数28件にまで大幅に増加しており、民有林材の販売も年々増加しています。



『連携した民有林関係者からは好評の声』

- ・販売価格が固定されているため、収入面の安定化が図られ円滑な事業運営ができた。
- ・これまでより高い単価での低質材の安定的な販売が可能となり、協定締結が収入の増加につながった。

このような好評の声を受け、今後も国有林材と民有林材の協調出荷の拡大を図ることにより、林業の成長産業化への一助となるよう取り組むこととしています。

林業試験地から

森林技術・支援センター

今回ご紹介するのが、山の稜線が茨城県笠間市と栃木県茂木町の県境に位置する仏頂山（ブッチョウサン：写真1）標高430.9mの中腹、仏頂山国有林242ほ林小班内の樹齢295年のスギとヒノキの高齢級人工林の仏頂山試験地です。試験地の概要に触れる前に、仏頂山の歴史等について述べたいと思います。車で笠間市内の県道1号線から5分、室町時代中期に建てられた、国の重要文化財である楞嚴寺（リョウゴンジ：笠間氏の菩提寺）の山門（写真2）がお出迎えします。更に5分程度進みますと楞嚴寺に突き当たり、試験地の調査には楞嚴寺の石段と境内（写真3）を移動します。この区間には、国指定天然記念物「片庭ヒメハルゼミ」の生息地と、建長4年（1252）制作の国指定文化財「千手観音立像」もあり、毎年4月8日に開帳されています。このように試験地調査までには、国の重要文化財に出会うこととなります。

本題の調査内容ですが、調査地の切株の年輪から、植栽されたのは西暦1726年頃の江戸時代の享保になり、徳川吉宗の代であったことが推定できます。ここでは主に、スギ63本・ヒノキ99本の成長量の変化とプロット内の更新木の調査を4年毎に行っており、今年度は面積0.25haプロットを4ヶ所（2箇所調査済み）測定しています。

現在のデータから、スギの「太郎さん（一番大きい調査木の俗称）」は、胸高直径119cm、樹高51m、単木材積は約17m³で、片やヒノキの「太郎さん」は、胸高直径86cm、樹高38m、単木材積は約8m³の測定数値となっています。前回から成長の大きな変動はないものの、落雷や台風等の災害に見舞われてないことが幸いしています。また、本調査地は江戸期の寺社林から明治に国有林に編入された林分であると考えられ、間伐等の施業履歴が不明です。そのため、いつの時点かは判りませんが、木材の搬出時に剥皮された樹幹の爪痕が、今日、修復したことが確認されます（写真4）。

更に、更新木の調査は、高木となるスギ、ヒノキの針葉樹のほか、スダジイ、アオダモ、イタヤカエデ、新規にウリノキやケヤキが樹冠下で生長が見られました。一方、サワグルミ、ホオノキ、イヌガヤなどは、減少や消滅しており天然更新の困難が見受けられます。

最後に、この山頂稜線は、人気の高いハイキングコース（楞嚴寺→仏頂山頂→高峯山の縦走ルート）です。貴重な文化財と高齢級人工林の大径材に対面するほか、登山道途中には太平洋側北限のヒメハルゼミの抜け殻？（写真5）に出会えることを期待しながら、試験地に赴くこともお勧めします。



写真1. 仏頂山試験地



写真2. 室町時代中期の山門（茅葺きの切妻造）



写真3. 参拝の石段と楞嚴寺



写真4. スギ（左）、ヒノキ（右）

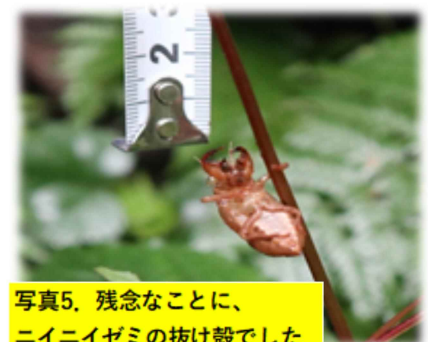


写真5. 残念なことに、ニイニイゼミの抜け殻でした

新型コロナウイルス感染症に伴う 木材需給動向と国有林材の供給調整の取組 資源活用課

関東森林管理局では、今般の新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、「令和2年度関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会」（臨時）を令和2年8月18日（火）に書面開催し、国有林材の供給調整の必要性について検討しました。

これまで、国有林材の供給調整については、「立木販売物件の搬出期間の延長」、「立木販売新規物件（一部）の公売の延期」を行い、管内の木材需給の動向を注視してきました。

委員会では、「新型コロナウイルス感染症の木材需給への影響は徐々に拡大しており、原木市場や大手製材工場では原木が滞留している状況が広範囲に見られ、これらの影響については、今後も不透明な状況が続くと予測される」との意見があった一方で、「7月の長雨の影響により各地域の原木市場では原木が不足している」との意見もあったところです。

このような状況から、今後における国有林材の供給調整については、これまでの立木販売物件の搬出期間延長等の措置を引き続き行い、各地域において関係者からの意見等も把握しながら、「供給過剰を緩和するための供給調整」と「雇用を確保する観点から原木生産を伴わない森林整備への振り替え」等も含め、地域の実情に即した取組を行うこととし、取組の時期については、「各地域の需要動向を見極めながら柔軟に取り組む必要がある」との検討結果となりました。

以上のような検討結果を受け、関東森林管理局では、現在実施している供給調整を継続するとともに今後の状況の変化に対応できるよう、各地域の関係者の意見を把握しつつ、引き続き木材需給の動向に注視していくこととしています。



【棚倉森林管理署管内の土場の様子】



日本で現在栽培されているきのこ



ハタケシメジ（キシメジ科 ホンシメジ属）

9月下旬から10月中旬に林道脇や公園などの埋木がある場所に群生する。
カサは径5cm～10cmで表面は平滑で灰色から黒褐色です。
柄は5cm～7cmで表面は平滑で白色の地に黒色が入ります。
ヒダは白色で柄に湾生する。



ブナシメジ（キシメジ科 シロタモギタケ属）

10月中旬～11月上旬にブナの倒木や切り株に散生する。
カサは5cm～12cmで大理石模様があり始め灰色後に白色になる。
柄は5cm～7cmで白色で平滑。
ヒダは白色で柄に湾生する。

栽培



天然



ムキタケ（キシメジ科 ムキタケ属）

10月下旬から12月上旬にブナの倒木や立枯木に発生する。
カサは半円形で黄土色から鮮黄色で径7cm～20cmで湿っている時弱い粘性があり、表皮は剥けやすい。表皮が剥ける所からムキタケの和名が付けられた。
柄は白色で短い。
ヒダは白色で柄に垂生する。



「森で学ぼう 親子『子ども樹木博士』チャレンジ!2020」を実施

福島森林管理署

福島森林管理署では平成26年度から、福島民友新聞社との共催で福島市土湯温泉近くの国有林内「きぼっこの森」（“きぼっこ”とは、“こけし”のことです。）において樹木博士の認定試験を開催しています。

今年は、8月9日に「森で学ぼう 親子『子ども樹木博士』チャレンジ2020」と銘打ち、公募による親子44名の参加者と、2020ミス日本みどりの女神 井戸川百花さんを1日森林管理署長として迎え、時折雨の降る空模様のなか、新型コロナウイルスの感染症対策をとっての実施となりました。

試験木には、遊歩道沿いの樹皮や葉・使われる用途・匂いなど特徴のある樹木15種を選定し、試験前の勉強会では森林管理署若手職員が判りやすい解説に苦心しながら説明を行い、参加者は熱心にメモをとりながら聞き入っていました。

試験では、試験木を行ったり来たり、自分の記憶を呼び起こすのに苦戦しながらも問題に挑戦していました。

採点中の待ち時間に子どもたちは木工クラフトにも挑戦、また、みどりの女神には歌を披露していただきました。

最後に1日森林管理署長を務めていただいたみどりの女神から「子ども樹木博士」の認定書が参加者全員に授与され、嬉しそうに受け取っていました。



今月の表紙

「ゆり園（6月下旬から7月下旬）」 「世界のあじさい園（6月下旬から7月下旬）」
「芝桜（4月下旬から5月中旬）」（ジュピアランドひらた）（撮影：白河支署）

福島県平田村の蓬田岳（標高952m）東側山腹に広がる公園は、「ジュピアランドひらた」です。

園内では、5月には地元の人々が植え始めたというシバザクラが一面に満開となるのに始まり、6月から7月にかけてはアジサイやユリが咲き乱れます。

ここはかつて国有林で、平成26年度に平田村へ売払いました。平成7年の開園以来25年の時を経て、平田村に利活用され、花を愛でる人々が集う場所となっています。



森づくり最前線

利根沼田森林管理署

南郷森林事務所

首席森林官 櫻岡 智之

智之

私が勤務する南郷森林事務所は、沼田市の南東に位置し、南側はみどり市、桐生市、前橋市、渋川市、昭和村に接している国有林約9千haを管理しております。

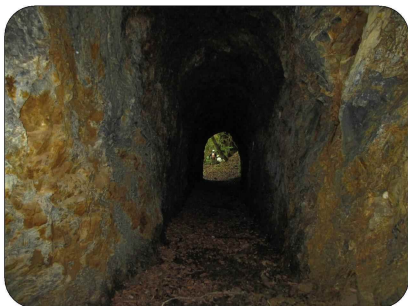
当管内には、赤城山（黒檜山〔くろびさん〕1,828m）があり、登山ルートこそ南郷側に有りませんが、沼田市県道沿いには、県指定天然記念物のヒカリゴケの自生地、麓には、かけ流しの温泉もあり、地元住民や観光客に親しまれています。

根利には、林業機械化センターがあり、管内国有林を研修フィールドとして提供しており、林業の機械化や林業従事者の人材育成を目的とした研修が行われています。



研修風景(作設技術)

当管内は、スギやカラマツなどの人工林が約7割を占めており、昔から林業が盛んな地域です。昭和初期には、伐木運搬のための根利森林鉄道が開通し、木材生産が盛んに行われていました。現在においても、先代が作りあげた豊富な森林資源を活用し、主伐や間伐を毎年実施しており、地域の木材産業に貢献しているところ



根利森林鉄道(トンネル跡)

近年は、国有林、民有林問わずシカによる樹木の食害やクマによる剥皮被害などの獣害が増加傾向にあります。今後の課題となっています。

今年度も獣害対策としてリンロンテープ巻きなどを実施していますが、なかなか被害が減らないのが現状です。



クマ剥皮被害



剥皮対策(リンロンテープ)

また、管内では林業の課題となっている効率化、低コスト化にも取り組んでおり、昨年、高芝国有林にて、成長が早く下刈回数の削減等が期待できる早生樹の「コウヨウザン」の植栽現地検討会及び試験植栽を行いました。

東日本での植栽事例は少なく、寒冷な利根沼田地域で育つことが期待されています。今後、調査・研究を群馬県と共同で行うことになっています。



コウヨウザン植栽

着任して5ヶ月経ち、まだ管内を回り足りませんが、そんな中でも国有林内で獣害箇所をみかけると心が痛みます。これからもせっかく育った森林を大事に守っていきたいと思います。また、南郷は、地元住民にとって国有林が身近な地区であるため、地元を含め国民に信頼されるような森林施業を行っていきたいと考えています。

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027)210-1158
FAX (027)230-1393